

■効果の見える河川事業

徳島県 正法寺川 清流ルネッサンスⅡ

徳島県 東部県土整備局

局長 近藤 文彰



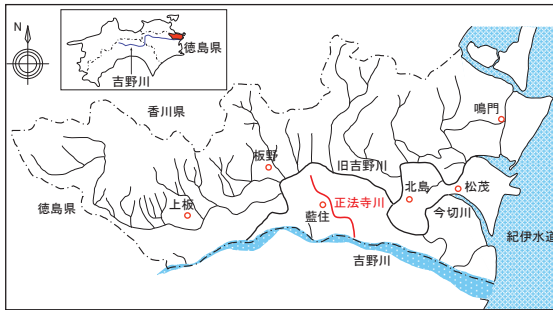
正法寺川は、一級河川吉野川の支川で、板野郡藍住町のほぼ中心を南東方向へ流下し、徳島市応神町で吉野川に合流する、延長5,200m、流域面積8.05km²の一級河川です。この河川の特徴としては、水源となる山が無いために平常時は流量が少なく、平地の住宅地と農地の中を流れており、生活雑排水の流入が多いことや、藍住町の急速な都市化やごみ放置により水環境が悪化しました。

このような状況に対し、平成13年度に「第Ⅱ期水環境改善緊急行動計画（清流ルネッサンスⅡ）」の対象河川に指定され、翌年の平成14年度に「正法寺川清流ルネッサンスⅡ協議会」を設立し、平成15年度に「吉野川水系正法寺川水環境改善緊急行動計画」を作成しました。その後、平成21年度に計画の一部変更を行っています。計画では、平成30年度を計画目標年度とし、フナなどが生息でき、快適な親水活動や景観の保全を図ることを目標水環境とし、「みどり橋」と「仁徳橋」のBOD年平均値で5.0mg/l以下を目標水質としています。現在、河川管理者、下水道管理者、藍住町、地元住民などが協力して水環境を改善するための様々な取り組みを行っています。

河川管理者の取り組みとしては、①平成8年度から実施している底泥の浚渫、②平成5年度から実施している旧吉野川からの導水（導水量0.2m³/s）、③平成14年度から実施している直接浄化施設による浄化、④昭和40年代から実施している河川改修、などがあります。また、下水道管理者や藍住町による下水道整備、地元住民や地元小中学校による河川清掃などのボランティア活動や環境学習などが行われています。

平成22年度からは新たな取り組みとして、水質浄化実験「浮島」プロジェクトを行っています。魚類や鳥類の生息空間の創造、水質の改善、生活排水対策等への意識の高揚を目的とし、徳島県、藍住町、地元住民団体の正法寺川を考える会による官民協働により、ヨシを植栽した筏を設置しています。

今後も関係機関や地元住民と協力し、正法寺川の水環境改善に向けた取り組みを進めていきたいと考えています。



位置図



旧吉野川からの導水施設



直接浄化施設



水質浄化実験「浮島」

■効果の見える河川事業

徳島県 正法寺川 清流ルネッサンスⅡ

藍住町長

いしかわ ともよし
石川 智能



徳島県の中央を流れる吉野川の downstream 左岸に位置する藍住町は、旧吉野川と吉野川に囲まれたデルタ地帯で、板野郡のほぼ中央にあります。いわば、たゆまぬ吉野川の沖積によってできた平坦な土地で、山がまったくない珍しい町です。

北緯 34 度 70 分、東経 134 度 29 分。南は徳島市、北は鳴門市と接しています。約 4km 四方で面積は約 16.27 平方キロメートルです。

そんな藍住町の中央には正法寺川が流れていますが、昭和 40 年代後半から急速な人口増加に伴う都市化によって水質の悪化が深刻な問題となっています。

町ではこうしたことを受け、昔のような水に親しむ風景を取り戻すため、本格的な親水公園の整備を進めてきました。正法寺川浄化事業の一環として建設された東中富親水公園は、魅力ある水辺づくりで国土交通省から手づくり郷土賞を受け、水にふれあう新しい公園として注目されています。そして、緑の広場付近の正法寺川沿岸に整備された正法寺川公園も園内につくられた西日本一の木造アーチ橋「みどり橋」の完成とともに大変話題となり、休日には人々の憩いの場として多くの親子連れの姿などが見られます。

また、本町と連携して正法寺川の清掃活動等の環境活動に取り組んでいる民間団体「正法寺川を考える会」では、地元小学生を対象にした環境学習会を開催し、正法寺川のほとりで川の水質調査や水生生物の捕獲・調査、水辺の植物の採取・調査を行ったりしています。ボートに乗船し、水面から正法寺川に生息する動植物を直接見てもらい、自然界における役割や生息するために必要な環境、その生き物の独特の生態などを学んでもらい、自然の大切さや美しさを心に残してもらえよう活動は今後も進めていきたいと考えております。



「みどり橋」



「正法寺川を考える会－環境学習会」